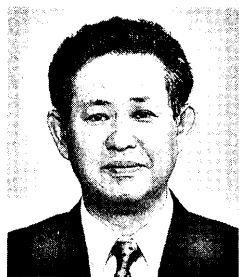


#### 《中学校》

# 「国語」における 対応課題は何か



有沢俊太郎

上越教育大学教授

#### 今回の全国学力調査の概要

全国学力調査は、昭和三十一年度から文部省が実施したが、三〇年代は学力テスト(学テ)とも呼ばれ、勤務評定(勤評)とともに日本教職員組合の激しい闘争の歴史があった。

昭和三四年度調査報告書には、「北海道・神奈川県・京都・高知の四道府県においては、道府県教職員組合の妨害により、一部の学校で調査実施が阻害された」と記されている(『全国学力調査報告書 国語・数学』文部省、昭和三五年

六月)。

学力調査の目的は、「学習指導・教育課程の改善および教育条件の整備に役立つ基礎資料を得ること」(同報告書)なのであるが、一部には、地域格差や学校格差を必要以上に顕在化させ、ひいては教員の差別などに直結するとの認識があった。

このたびの「平成一三年度小中学校教育課程実施状況調査」(国立教育政策研究所)は、平成一二年五月の学校実態に基づき、平成一四年一月、二月(平成一三年度)に抽出法によって調査実施、同年一二月一三日(平成一四年度)に調査結果が公表された。

調査の目的は、学習指導要領の目的・内容に照らした学習の実施状況を、①前回調査との比較と、②設定通過率と通過率の比較によって明らかにすることである。

前回の調査は、小学校が平成五〜六年度に、中学校が六〜七年度にかけて行われている。

設定通過率とは、専門家によって設定された正解率で、実際の正解率との比較

の対象となるものである。

文部科学省は、全体の結果について、「おおむね良好」としながらも、①について、「義務教育を終える中学校第三学年で低下の傾向は見られず全体として、前回と同様の部分も相当あったものの、低下した部分が上昇した部分を上回るなどの状況も見られた」（大臣名公文書、一三日）とし、②については、設定通過率の設定のあり方に関する新聞記者の質問に、「設定そのものが恣意的で不透明であるとの声も含めて謙虚に分析をしてもらいたい」（大臣発言、一七日）としている。

中学校国語の結果は、①については、第一、二学年は変化なし、第三学年は前回を上回っていた。また、②の設定通過率との比較でも、数学や社会科と違って国語は「おおむね良好」ということであった。これは、一二月一四日付け各新聞が一面トップで報道したから、ご記憶の読者も多いと思う。

文部科学省国語担当係官も、最近の研究会（一二月二七日）でこのことに触れ、「新聞は新学習指導要領の実施で基礎教

科の国語はきつと下がると信じていてバツシングしようとするね引いて待ち構えていたのだ。ところがそれほどではなかった。肩すかしを食らった恰好になってしまった。これも（会場の）先生方の努力の賜である」と発言して、会場を沸かせた。

同慶の至りである。しかし、中学校国語科にも、大臣が危惧する部分はないのであろうか。

内容・領域別には第二学年の「表現（文字言語）」のできが悪かったという。そこで、次項では、これに相当する問題群のうち、実態通過率が設定通過率に届かなかったか、届いてもギリギリだった作文問題を四例あげる。

### 問題例

(1) (3)が「表現（文字言語）」に属する問題、(4)だけは領域的には「理解」であるが、実質は正確な理解力を「自分の見方や考え方を広げること」（出題のねらい）につなぐというものである。問題は、自由作文と条件作文とに分かれる。

### (1) 自由作文・第二学年B・問題2（表現、言語事項）

学級で文集を作るようになりました。学校や家庭での生活、社会の中などから書きたいと思う題材を見つけて、全員がそれぞれ感想文を書くことにしました。あなたならどのようなことを書きますか（通過率は一、二で七一・二％、設定通過率は七〇％）。

一 (例) のように、まず、あなたが書きたいと思う題材を一つ以上あげなさい。また、題材についての事実や感想・意見を書きなさい。

(例) 書きたい題材…道端の空き缶  
題材についての事実や感想・意見…空き缶が道端に捨てられているのをよく見かけるが、きたないし危険だと思う。

二 右の「一」で取り上げた題材の一つを用いて、文章の書き出しの部分を原稿用紙に書きなさい…（一四〇字）。

### (2) 条件作文（語）…第一学年

#### B・問題2（表現、言語事項）

次のA、B、Cそれぞれの欄には、語

句が三つずつ示されています。A、B、

Cの三つのうちからどれか一つを選び、

そこに示された三つの語句をすべて使

い、具体的な事例を入れて、自分の考え

を原稿用紙にまとめなさい。ただし、同

じ語句を何度使ってもよいし、語句を使

う順番も自由です：(一四〇字、通過率

は六四・五%、設定通過率は六五%)。

A…クラブ活動、勉強の時間、計画

B…テレビ、読書、生活

C…ごみ、道路、環境

### (3) 条件作文(グラフ) .. 第二学

#### 年C・問題2(表現、言語事項)

次に掲げたグラフ(グラフは省略、平

成一〇年度「国語に関する世論調査」文

化庁の一部)は、「漢字についての意識」

にかかわるアンケート調査の回答の一部

を取り上げたものです。

一 このグラフから分かることを、

例にならつて、グラフに示されている数

値を使いながら、主語と述語を適切に対

応させて書きなさい(二行分)。

(例) 毎日家庭学習が必要であると思

(通過率は五九・六%、設定通過率は七〇%)。

二 右の「一」で書いたことについて、

あなた自身の感想を書きなさい(六行分、

通過率は五二・四%、設定通過率は六

五%)。

### (4) 条件作文(読解) .. 第二学年

#### B・問題3(理解)

次の文章(池上彰「日本語の「大疑問」

の一部)を読んで、あとの問いに答えな

さい(一、二、三、五省略)。

四 次の文について、あとの問いに

答えなさい。

「コンビニエンスストアへ行ってお弁

当しか買わなかったのに、『お弁当の

ほうあたためますか』と聞かれた」。

《問い》右の文中の傍線部「ほう」

はなぜ使われているのでしょうか。その

理由と考えられることを、本文の内容を

踏まえて、分かりやすく説明しなさい

(自由記述、通過率は五四・九%、設定

通過率は五五%)。

六 日本語のよさやすばらしさにつ

たことを、具体的な例を一つあげて書き

なさい(通過率は二六・八%、設定通過

率は五〇%)。

### 分析と対応 策ひとつ

#### (1) 分析

通過率が設定通過率をクリアできない

か、クリアしてもギリギリだった問題は、

「自分の考えを大切にし、文を整えて適

切に書く」(2)、「ものの見方や考え方を

広くし自分の立場を明らかにして適切に

表現する」(1)(3)、そして「自分の見方や

考え方を広げる」(4)と、四例すべてに

「自分」という言葉が入っている。

ただし、自分の考えをつくり表現する

際の抵抗感は一様ではない。空き缶問題

など、身近な問題を題材にした問題(1)で

は、自由作文でも結構書けるのである。

条件をふまえて書く問題では、語(2)↓グ

ラフ(3)↓文章(4)の順に通過率と設定通過

率のギャップが大きくなっていく。

とくに、文章を読解して自分の考えを

対応のポイント

るといふのは、今の中学生が最も苦手とするところである。

問題(4)では、若い人の「ほう」や「とか」表現について、池上氏自身は否定的に書き出しているながら、文章(問題文)末尾になって、俵万智さんの「若い人もなかなかものをはっきり言わない」という点では大いに日本的だ」という発言を

取りあげ、曖昧表現を新しい文脈に入れ直している。

解答者には、

- ① 問題文読解から自分の一方的な先入主(学校の常識)を打破し
- ② 自分の考えを固めつつ
- ③ 具体事例を探して論理的に表現するという複雑な手続きが要求されることに

① 今回の調査のねらいを確認する。

長い歴史を持つ学力調査のねらいについては、さまざまな見方があった。今回の調査のねらいは教育課程の実施状況を知ることであるが、教師にとっても指導過程や指導法の改善、教材開発などの身近な仕事と結びついていることを認識すべきである。

② 今回の調査結果についての文部科学省の見解を整理する。

一般的な見解、国語に関する見解に分けて文書や発言を整理しつつ、自分の学校やクラスの実態に照らして、「おおむね良好」という分かりにくい表現を解釈する。

③ 問題例(調査集計結果)を分析し対策を考える。

あまり良好ではなかった問題を取りだし、自分が教える生徒が解答者だった場合を想定して、通過率の妥当性を考えてみる。どうすればよい結果が得られるか、国語部などで具体策をできるだけ多く出し合おう。

なる。

(2) 対応策

「自分」系の作文問題を克服するには、日本の社会と文化の根幹にかかわる抜本的な荒療治が必要との見方もあるが、(4)のような問題への国語科としての対策として、読み・書き関連学習法の見直しが推奨される。

過日、大学院の方法演習で佐川光男さんの提案を聞いたが、それは、読み・書きの関連目的を限定しつつ、部分的関連法の可能性を提案したものであった。

(4)でも、「若者の曖昧表現の許容度」という、文中には現れない重要概念に限定して考えた者だけが、「日本語のよさやすばらしさ」について自分の考えを論理的に展開することができるとは限らない。